

「次期教育振興基本計画について」(答申)2023年3月8日 中央教育審議会 のまとめ

一水教育研究所「令和の日本型学校教育研究推進委員会」

幼児教育・初等教育に関わる部分を要約しました。これからの教育を考えていきましょう。

【社会の現状や変化】

- ・ VUCAの時代（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）
- ・ 少子化・人口減少や高齢化
- ・ グローバル化・地球規模課題
- ・ ロシアのウクライナ侵略による国際情勢の不安定化
- ・ DXの進展, AI・ロボットの発達, デジタルやグリーン（脱炭素）人材不足
- ・ 共生社会・社会的包摂の推進
- ・ 精神的豊かさの重視（ウェルビーイング）
- ・ 18歳成年・こども基本法 等

【第3期計画期間中の成果】

- ・（初等中等教育）国際的に高い学力水準の維持、GIGAスクール構想、教職員定数改善
- ・（高等教育）教学マネジメントや質保証システムの確立、連携・統合のための体制整備
- ・（学校段階横断）教育費負担軽減による進学率向上、教育研究環境整備や耐震化等

【第3期計画期間中の課題】

- ・ コロナ禍でのグローバルな交流や体験活動の停滞・不登校・いじめ重大事態等の増加
- ・ 学校の長時間勤務や教師不足・地域の教育力の低下、家庭を取り巻く環境の変化
- ・ 高度専門人材の不足や労働生産性の低迷・博士課程進学率の低さ等

【次期計画のコンセプト】

〈2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成〉

- ・ 将来の予測が困難な時代において、未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決などを通じて、持続可能な社会を維持・発展させていく
- ・ 社会課題の解決を、経済成長と結び付けてイノベーションにつなげる取組や、一人一人の生産性向上等による、活力ある社会の実現に向けて「人への投資」が必要
- ・ Society5.0で活躍する、主体性、リーダーシップ、創造力、課題発見・解決力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成

〈日本社会に根差したウェルビーイング（※）の向上〉

- ・ 多様な個人それぞれの幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるための教育の在り方
 - ・ 幸福感、学校や地域でのつながり、利他性、協働性、自己肯定感、自己実現等が含まれ協調的要素と獲得的要素を調和的・一体的に育む
 - ・ 日本発の調和と協調（Balance and Harmony）に基づくウェルビーイングを発信
- ※身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。

【今後の教育政策に関する基本的な方針】

- ①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
 - ・主体的に社会の形成に参画、持続的社会的発展に寄与
 - ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、大学教育の質保証
 - ・探究・STEAM教育、文理横断・文理融合教育等を推進
 - ・グローバル化の中で留学等国際交流や大学等国際化、外国語教育の充実、SDGsの実現に貢献するESD等を推進
 - ・リカレント教育(社会人の学び直し)を通じた高度人材育成
- ②誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
 - ・子供が抱える困難が多様化・複雑化する中で、個別最適・協働的学びの一体的充実やインクルーシブ教育システムの推進による多様な教育ニーズへの対応
 - ・支援を必要とする子供の長所・強みに着目する視点の重視、地域社会の国際化への対応、多様性、公平・公正、包摂性(DE&I)ある共生社会の実現に向けた教育を推進
 - ・ICT等の活用による学び・交流機会、アクセシビリティの向上
 - ・人生100年時代に複線化する生涯にわたって学び続ける学習者
- ③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
 - ・持続的な地域コミュニティの基盤形成に向けて、公民館等の社会教育施設の機能強化や社会教育人材の養成と活躍機会の拡充
 - ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進、家庭教育支援の充実による学校・家庭・地域の連携強化
 - ・生涯学習を通じた自己実現、地域や社会への貢献等により、当事者として地域社会の担い手となる
- ④教育デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進
 - ・DXに至る3段階(電子化→最適化→新たな価値(DX))において、第3段階を見据えた、第1段階から第2段階への移行の着実な推進
 - ・GIGAスクール構想、情報活用能力の育成、校務DXを通じた働き方改革、教師のICT活用指導力の向上等、DX人材の育成等を推進
 - ・教育データの標準化、基盤的ツールの開発・活用、教育データの分析・利活用の推進
 - ・デジタルの活用と併せてリアル(対面)活動も不可欠、学習場面等に応じた最適な組み合わせ
- ⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話
 - ・指導体制・ICT環境等の整備、学校における働き方改革の更なる推進、経済的・地理的状況によらない学びの確保
 - ・NPO・企業等多様な担い手との連携・協働、安全・安心で質の高い教育研究環境等の整備、児童生徒等の安全確保
 - ・各関係団体・関係者(子供を含む)との対話を通じた計画の策定等